



舞鶴市における 日本語教室の開設について

NPO法人舞鶴国際交流協会

Maizuru International Association
(M I A マイア)

京都府地域日本語教育シンポジウム
2020年12月13日(日)



M I A にほんご教室





MIAにほんご教室開設までの経緯

2014年：民間の日本語教室が閉校

2015年：舞鶴市のアンケート調査

2016年：日本語の教え方講座（基礎・入門）

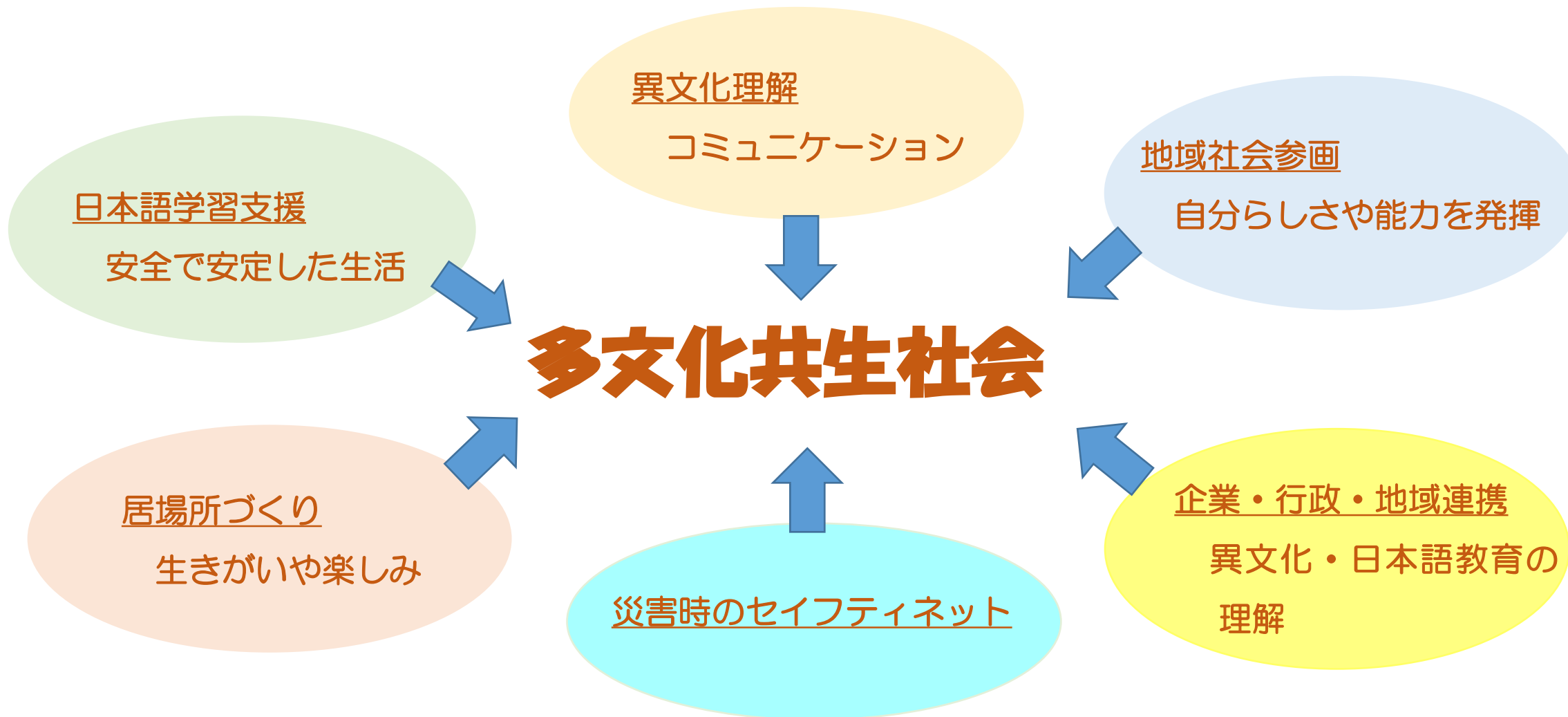
2017年：第1回日本語支援ボランティア養成講座
京都府国際センター共催
受講者29人、ボランティア登録23人
11月11日開校（試行）

2018年：文化庁の地域日本語教育スタートアッププログラム
（2018年度～2020年度）





M I A にほんご教室の意義





M I A にほんご教室の活動

毎週土曜日 13:30~15:00 (90分)

受講料 1回100円

学習者 19名

インドネシア、ベトナム、アメリカ、

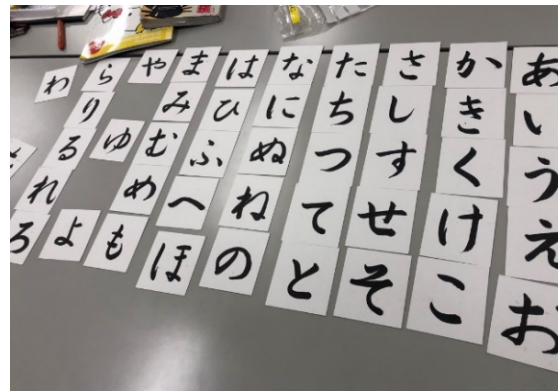
韓国、フィリピン、中国など

会社員、主婦、英語教師、技能実習生など



(1) 日本語学習

- M I Aの養成講座を受講したボランティアが指導
- 学習者のレベルに合わせてマンツーマン形式
- テキスト：京都府国際センターのテキスト
みんなの日本語。





(2) 日本文化の紹介





(3) 安全・安心な生活のための情報提供

- 防災に関する用語や知識
- 新型コロナに対する衛生指導
(手洗い、マスク、うがい)
- 防災訓練：京都府国際センター共催
(2021年1月)
- 交通安全指導 (予定)





(4) 異文化交流



ちゃったまつり

まいてフェスタ





ハロウィンパーティー



高校生との交流

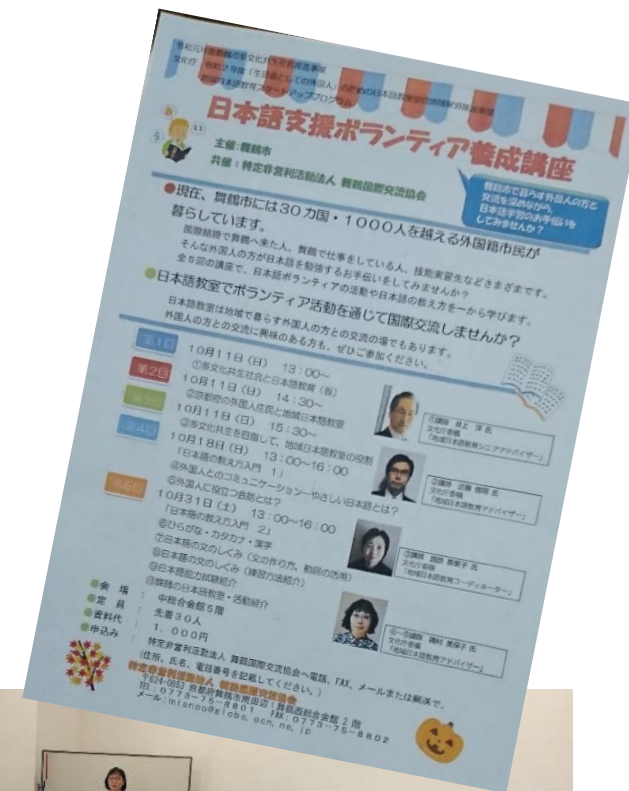


(5) 新規ボランティア養成講座

2018年度 受講者30人、ボランティア登録11人

2019年度 受講者36人、ボランティア登録11人

2020年度 受講者28人、ボランティア登録11人



(6) スキルアップ講座

2018年度 7回

2019年度 6回

2020年度 6回





(7) 多文化共生講演会

2018年度 「多文化ミーティング」

文化庁アドバイザー、外国人住民、外国人雇用企業、支援者などから外国人を取り巻く現状や体験談を聞く。



2019年度 「地域におけるダイバーシティ推進の意義と課題」

行政・企業・市民が外国人を受入れ共生していくために必要なこと。
地域における日本語教育の充実のために必要なこと。

2020年度 「コロナ禍から社会の多様性の『大切さ』について考える」

新たな差別が生まれ多文化共生がより一層重要となるなか、
言葉の壁や心の壁をなくしていくためににほんご教室の果たす役割が大きい。



京都府国際センター共催事業および 文化庁プログラムの成果

- ★人材養成：ボランティアの登録人数56名（2017年～2020年）
現役ボランティアのスキルアップ
- ★教材の整備、充実
- ★一般市民や外国人雇用企業、行政との連携・協力
- ★地域住民や地元の高校生、学習者とボランティア、学習者同士、
ボランティア同士の交流
- ★企業からにほんご教室の問い合わせが増加



教室活動の成果

- ★学習者や外国人ボランティアが英会話教室や料理教室の講師として活動
- ★イベントに参加し、「生活者としての外国人」の存在をアピール
- ★学習者同士が日本語を共通語として会話
- ★教室外での学習者同士の交流





MIAにほんご教室の課題

持続的な教室運営体制の構築

多様なニーズに対応できる体制整備

常設の会場の確保

財源確保

ボランティアの継続的育成

受入れ日本人社会の異文化理解促進

企業、行政、関係機関との連携



日本語教師資格取得のための環境整備

★学習機会の地域格差解消

★時間・費用の負担減





今後の活動・目標

★M I Aプログラム・カリキュラム開発

★子どもサロン（仮称）

★日本人対象の日本語教室

最後に・・・



ご清聴ありがとうございました